

社会科シラバス 高校1年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 公共	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2 単位	第 1 学年	・『公共』東京書籍（教科書） ・『フォーラム公共 2026』東京法令出版（図説）
学習の到達目標	・地域の別にかかわらず、人間を取り巻く環境や背景、現代的な諸課題の形成過程について、史学などの人文科学、法学・政治学・経済学などの社会科学の知見を理解し、資料の読み取りなどの技能を生かして、自らや公共のあるべき姿を模索し、真理を追究していこうとする姿勢や、獲得した知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を涵養する。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と国家・地域の課題を掘り下げて把握するローカルな視点とを併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を世界に向けて発信できるとともに、国際社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、労働者・家庭人・余暇人・市民（主権者）としての視点を意識しながら、現在世界各地で起きている問題に対して、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、先哲の思想や他者の意見を尊重しながら協働し、平和な世界を築く人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	現代的な諸課題について、問いをたて、他者と協働しながら、解決を模索する主権者としての素養を身につけようと努めている。＜主体性・多様性・協働性＞ 先哲の思想や社会事象の見方・考え方を活かし、多様な意見に開かれた自己を意識し、あるべき社会の姿を議論し、自分の考えを表明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞ 現代社会における仕組みや課題について考察し、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの
- D：未提出、未実施

2. 学習内容及び評価方法

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
一学期中間	第一部 「公共のとびら」 第1章 青年期とパーソナリティ 第3章 公共的な空間における基本的原理 -私たちの民主的な社会-	○自己が青年期に位置していることを理解し、発達に応じた課題やその克服行動の過程を理解する。 ○社会の変化と課題に対して、ルールでどのように対応するか、どのようなルールが望ましいか考察する。 ○裁判制度に触れ、司法権の意義を理解する。 ○権力の制御を目的とした「法の支配」「民主政治」「基本的人権」について理解する。 ○人権思想の歴史的展開と日本国憲法での表れについて、理解する。 ○立憲主義における平等権の重要性、自由権と公共の福祉について、判例を通じて理解し、対立をいかに解消するか考察する。	・よい社会とは何かを常に考え、そのために青年期がどのような位置づけで、求められている役割が何なのかを理解する。 ・平等権や自由権の考え方を説明できる。 ・社会のあるべき姿を模索し、他者と議論する姿勢をもっている。
一学期期末	第2部 自立主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち 第2章 法の働きと私たち	○社会権とプログラム規定説を通じて、その基準が立法府や行政府の判断に委ねられることを理解する。 ○新しい人権は社会情勢を踏まえた司法判断によって創出されることを理解する。 ○民主政治の意義を、先哲の考察を参考に、独裁制や共和政と比較しながら検討する。直接民主制と間接民主制の比較を通じて、双方の意義と課題を認識する。 ○法に関わる立法・行政・司法の三権分立の関係や日本の国会や内閣制度を、他国との比較を通じて考察する。 ○選挙制度が政治体制に与える影響を考察し、選挙への関心を高める。	・新しい人権と幸福追求権との関係性を説明できる。 ・社会権とプログラム規定説、立法府・行政府の関係性が説明できる。 ・三権分立の意義、議院内閣制の趣旨について、アメリカの制度と比較し説明できる。 ・国会の制度の意義、立法過程における制度の目的を説明できる。 ・選挙制度と現代政党政治の関係性について説明できる。 ・民主主義の意義について、自己の意見を表明できる。 ・公共に生きる人として、政治参加を意識している。

二 学 期 中 間	第 2 部 自立主体として社会に参画する私たち 第 3 章経済社会で生きる私たち テーマ 1 現代の経済と市場 テーマ 2 市場経済に於ける金融の働き	○限りある資源の生産・消費・分配において、効率性と公平性という二つの視点を獲得する。 ○経済体制や経済思想を比較し、その相違点を把握する。 ○キャリア教育を意識して、働く個人がどのように人びとと関わるか自身の価値観を明らかにする。 ○市場経済の仕組みと課題を理解する。 ○一国経済の状況を把握するため、国民経済統計と産業構造を理解する。 ○物価の変動と金融政策の関係性を理解する。	・経済思想や経済体制、市場経済の意義と課題を、効率性と公平性という観点から説明できる。 ・企業や NPO の仕組みを説明できる。 ・自己のキャリアを意識しながら、社会での自身の在り方について表明できる。 ・国民経済統計の概念を説明できる。産業構造について、データから分析できる。 ・金融の仕組みと意義、物価と金融政策との関係性を説明できる。
二 学 期 期 末	第 2 部 自立主体として社会に参画する私たち 第 3 章経済社会で生きる私たち テーマ 3 財政の役割と持続可能な社会保障制度 第 5 章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ 4 グローバル化する国際経済	○社会保障制度を通じて、公共のあるべき姿、熟議と政治参加への意識を醸成する。 ○政府の経済活動が国民の生活に与える影響について理解する。 ○少子高齢社会の現状をデータから分析し、財政や社会保障、国民経済に与える影響について理解する	・財政の機能と意義について説明できる。 ・少子高齢社会の原因と影響について説明できる。 ・民営化や社会保障制度など、社会の課題について意見を表明し、議論することができる。 ・公共に参画する市民としての態度を有している。

学年末	第 2 部 自立主体として社会に参画する私たち 第 5 章 国際社会のなかで生きる私たち ○模擬選挙 (LHR での主権者教育を合わせて実施)	○国際社会の枠組みである、主権国家や国際法の意義や課題を理解する。 ○第二次世界大戦以降の国家間戦争や内戦、民族紛争の概要と現代国際社会への影響を理解する。 ○平和な社会の実現に向けて、国際社会で行われている取り組みと課題、日本や我々自身のあり方を考える。	・多様な国家の在り方が承認されると同時に、国家間の紛争解決の困難さ、国際法の意義と課題を、主権という概念を用いて、説明できる。 ・第二次世界大戦後の国際社会の紛争を把握し、その特徴について説明できる。 ・勢力均衡や集団安全保障という概念を駆使して、国際連合の意義や課題、平和への取り組みについて説明できる。 ・「平和」がどのような状況であるか、平和を創出するためにどのような取り組みが行われるべきか、自身の意見が表明できる。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
現代社会の課題を解決しようという公民としての態度を有している。公共のあり方、そこで生きる人びととしてのあり方を模索し、問う姿勢を見せている。学習に積極的に取り組み、学習方略を改善している様子が見られる。周りのクラスメイトと主体的に意見の交換をする様子がみられる。＜主体性・多様性・協働性＞			提出物による評価・授業態度
設定された課題に対して、身につけた見方・考え方、知識・技能を活かし、適切に分析できている。課題に対する自分の考えや価値観を、自覚的に認識している。分析や自らの考えを、他者にも読み取れるように適切に表現することができる。＜思考力・判断力・表現力＞			定期考査・提出物による評価
現代社会のメカニズムや構造、自身の判断を客観的で深いものにするための見方・考え方や知識、本文や図表の読み取りなどの技能を身につけられている＜知識・技能＞			定期考査